

「色を聴こう」

(第五十回)

あなたは音を聴くと色がみえますか？たとえば「黄色い声」とは、頭のとっぺんから出る女性の甲高い声のこと。こう感

じるのは、頭の中で聴覚と視覚が一緒に刺激されるため。日本では黄色

色だがイタリアでは「白い声」となり、逆に男性歌手による深みのある声は「黒い声」となるそうだ。

これはアマチュアのレベルだが、音を聴くと色を感じる人が実際に存在する。「色聴」所有者と呼ばれ、音程が完全にわかる絶対音感を持つ人に多い。

70年前の研究では、ドは赤色、レは董色、ミは黄金色、ファはピンク、ソは空色、ラは黄色、シは銅色、ドは再び赤色という。別に”ドレミファソラシ”の7音が虹の”赤橙黄緑青藍紫”に対応す

るといふ調査もある。人の感性で当然異なるものだが、音楽家は共通する色彩が少なくない。

そういえば、作曲家の坂本龍一氏が、東京大学でMRIの実験に協力したことがある。目を閉じて作曲を連想するだ

けで、脳の聴覚や視覚、

運動の部位が活発に

活動するのが証明さ

れた。イメージで音

を聴き、彩を感じ、

鍵盤を指で弾いてい

るのであろう。

筆者も恥ずかし

ながら音楽家の一人。

坂本氏の100分

の1ほどだが色聴を

感じ、医学者として

冷静に理解できる。こ

の現象を一般の人にわか

ってもらうため、音色と感

性との関係で説明しよう。フ

ルート→希望、クラリネット→憩

い、オーボエ→悲しみ、ホルン→

神の啓示とのことだが、あなた

はどのように感じますか？

健康のススメ

板東 浩

(医学博士・内科医師)